

ジェンダー化された空間と 地域社会における役割 －生地 of 清水を事例に－

12110141 松本満里菜

ジェンダーと空間

- ジェンダー

社会的・文化的に構築される性差(吉田 2004)

ジェンダー関係も空間を生産・再生産させ続けている(吉田 2006)

- ジェンダー化された空間

「さまざまなジェンダー関係が反映され」た空間(影山 2000)

- ・ 相撲の土俵（神聖や穢れのために女性の立入を制限）
- ・ 特定の性に特化した職場（看護の現場など）

ジェンダー化された空間に関する研究

男女の権力関係が空間形成に及ぼす影響について議論

- **女性 は 男性 の 保護 下 に ある べき という 考え**

職業婦人のための住宅として提供された同潤会大塚女子アパートを対象に研究。同アパートは家父長の代わりに彼女たちを厳格な管理下においたと指摘。(影山 2000)

- **男性 中心 主義 に おける 女性 の 立場 の 弱さ**

沖縄の旧特飲街は、米兵の一般女性に対する性暴行を防ぐために作られた場所。女性たちが社会秩序のために犠牲になってきた表れであると指摘。(吉田 2006)

ジェンダー化された空間の可能性

久木元(2010)

従業員の大半が女性である旅館では、延長保育ニーズに対応。
従業員を仕事に集中させ、旅館のサービス理念に沿った正しい
接客を従業員に定着させることができたと評価された。

ジェンダーの視点で捉えると…

- 特定の性に特化した職場→ジェンダー化された空間
- 周囲から理想とされる女性像を学ぶ→旅館従業員の一員として定着
⇒ジェンダー化された空間には新規加入者を社会に定着させる機能もあるのでは

生地の清水に関する研究

家事関係で女性が頻繁に利用(松野・福島2018、吉崎2005)

→特定の性による利用が多い

人間と社会に関わる領域では、ジェンダー化されていない領域は存在しない(上野2002)

⇒清水もジェンダーの視点から捉えることができる

清水が地域社会に果たした役割を捉えることで、ジェンダー化された空間の機能について明らかにすることができる

研究目的

生地の清水を事例に、地域住民の目線から地域資源の空間としての位置づけをジェンダーの視点から検討する。そして、ジェンダー化された空間が果たす役割について考察することを目的とする。

研究方法

地域住民へのインタビュー（9名）

- ・スノーボールサンプリングを採用
- ・清水の利用管理実態や
清水に対する印象などを伺う
→清水と地域住民の関わり及び
地域住民の考えなどについて探る

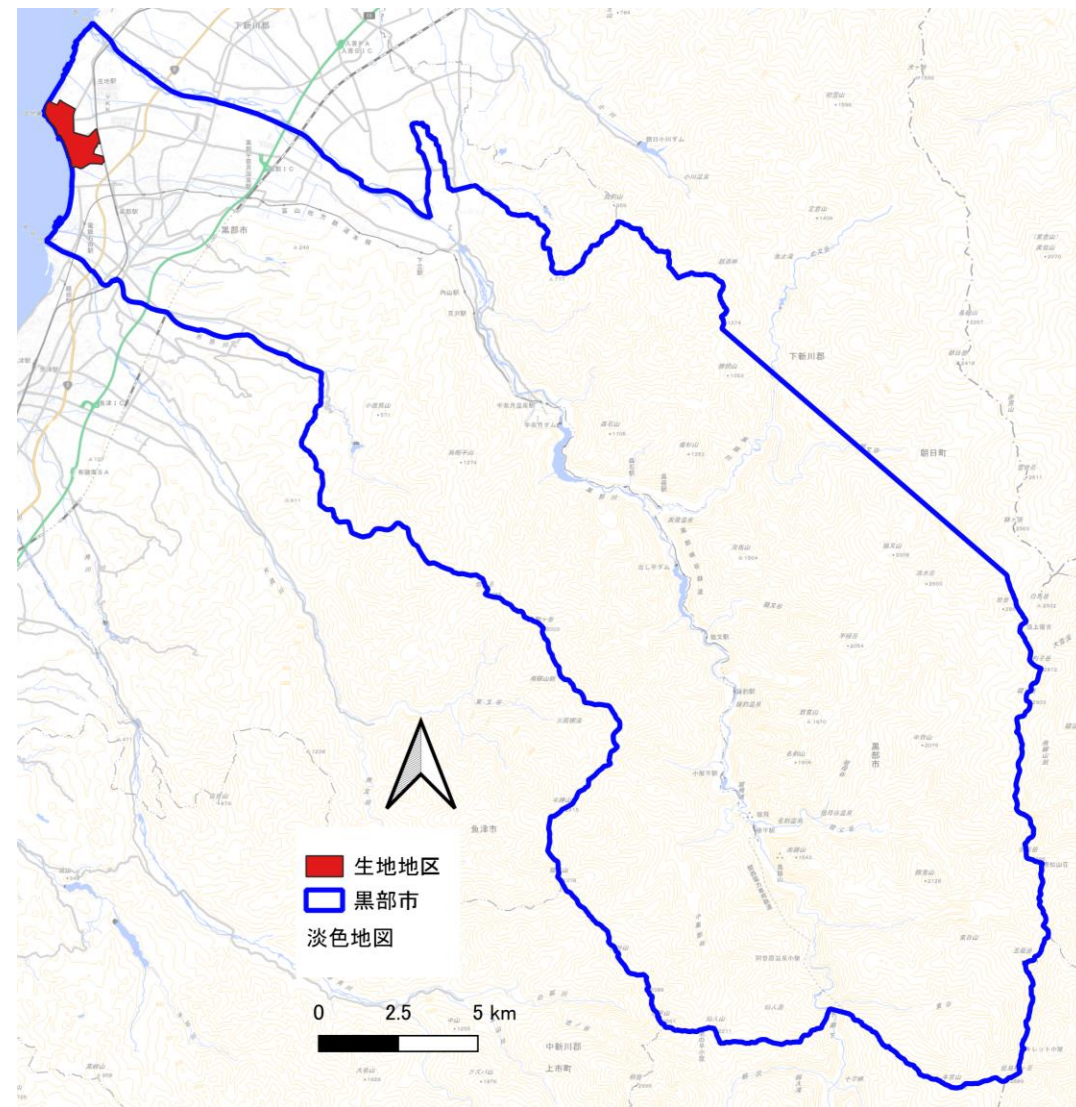
	性別	年齢	出身
Aさん	男性	70代	生地地区
Bさん	女性	70代	他地域
Cさん	男性	－	生地地区
Dさん	男性	70代	生地地区
Eさん	女性	70代	他地域
Fさん	男性	－	他地域
Gさん	男性	70代	他地域
Hさん	女性	80代	他地域
Iさん	男性	70代	生地地区

（インタビューより作成）

※年齢をお伺いすることができな
かった人には「－」で示す。

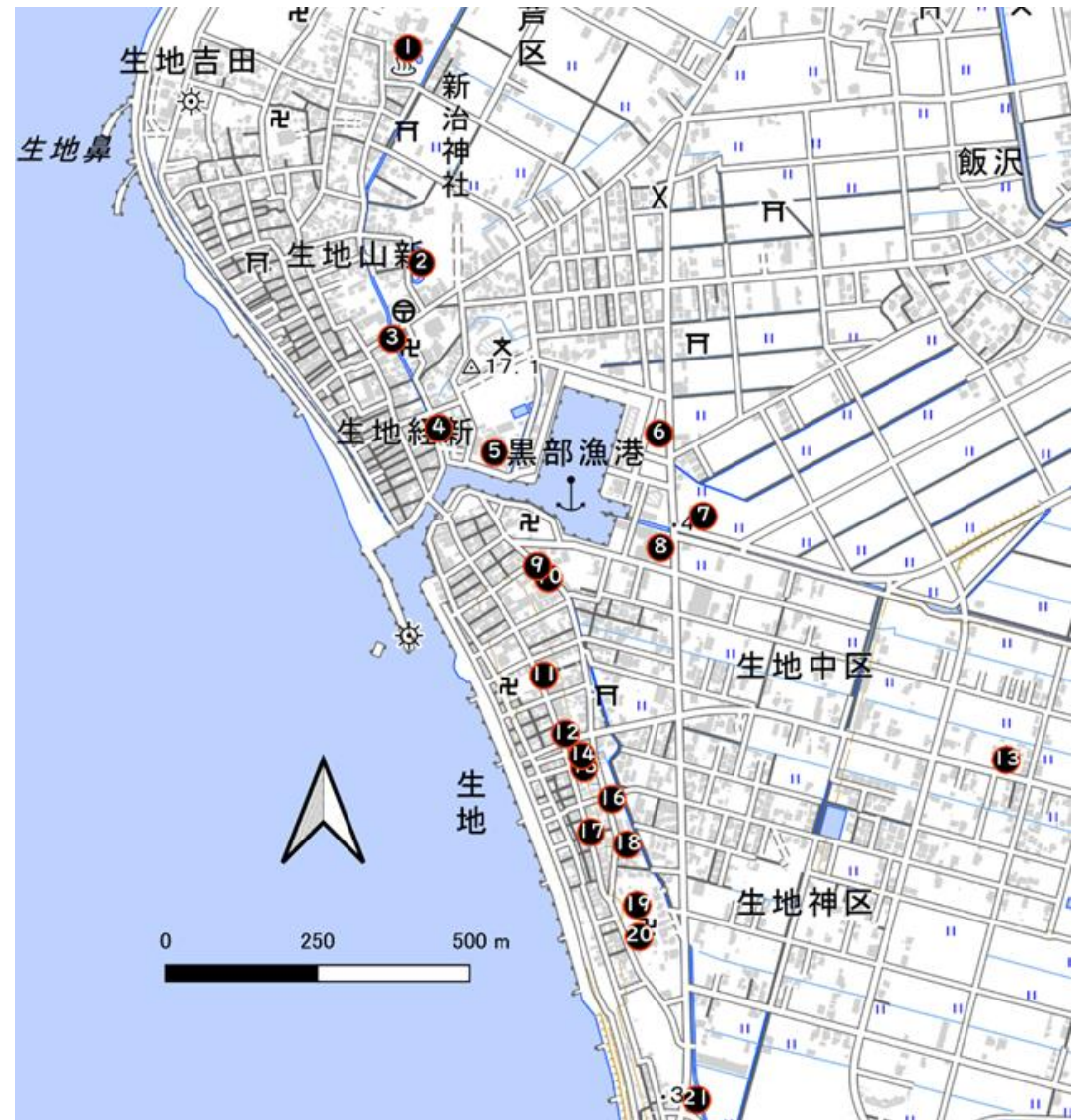
黒部市生地地区

- 黒部市北東部にある海沿いの地域
- 人口：3,575人(2022.12.31時点)
→黒部市内で4番目の規模
- 水産業が盛ん
(漁業の町・漁業出稼ぎの町)
- 高度経済成長により、
工業部門が拡大(YKKグループなど)



生地の清水

- 黒部川扇状地の伏流水が湧き出したもの
- 生地地区に21箇所分布
- 古くから洗濯などの生活用水や飲料用として住民から利用
- 全国名水百選(1985年)などに選定



(生地まち歩きマップから作成)
※1.5~8.10.13.18.19は研究対象から除外

清水の利用管理実態

- **家事関係(特に水仕事)の場としての機能**
 - ・ 主に洗濯や炊事で利用
 - ・ 洗濯は各清水に設けられたグループに所属する世帯のみ可能
 - ・ グループに加盟した世帯で清水の管理を行う
 - ・ 女性が中心となって利用管理を行う
- **遊びや学びの空間としての機能**
 - ・ 子どもの遊び場になっていた
 - ・ 大人が利用する様子から清水利用に関するルールを学ぶ



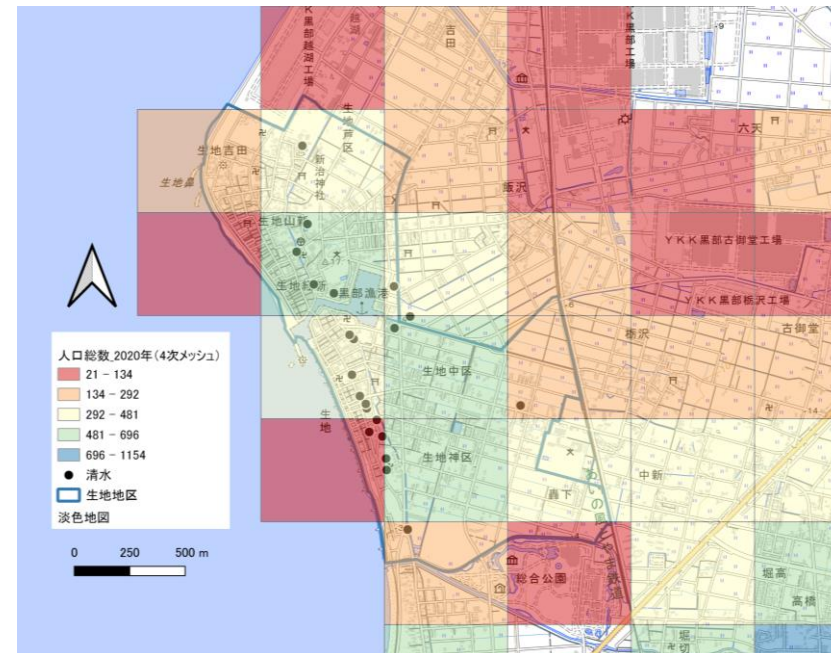
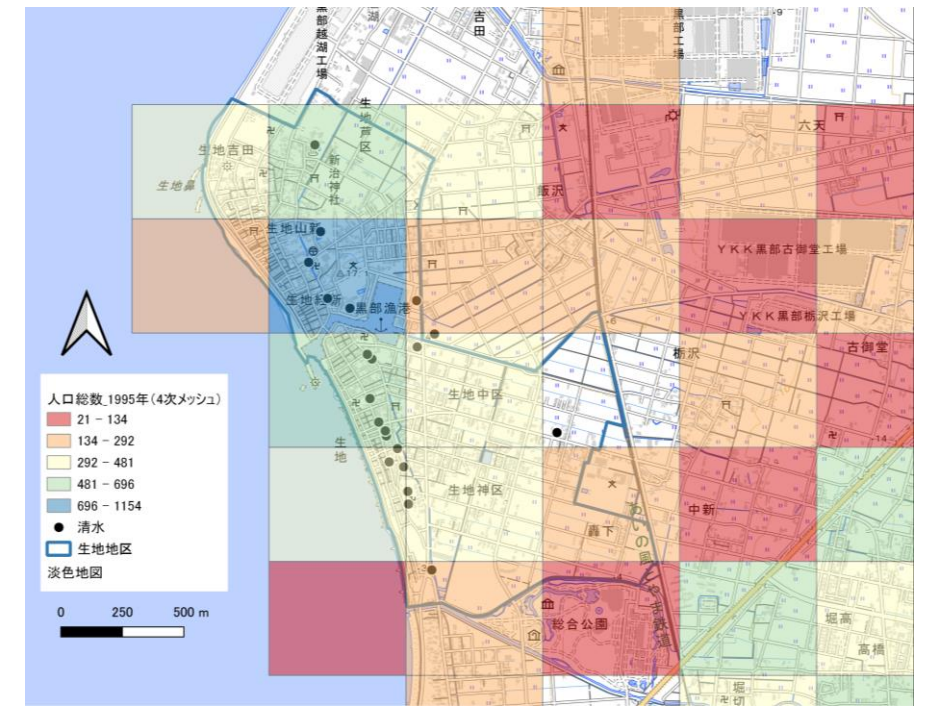
(2023年 筆者撮影)

清水の利用管理実態

- 利用者の高齢化・新規利用者なし
 - 生活環境の変化
 - ・家電製品(特に洗濯機)の普及
 - ・居住地が内陸寄りに遷移
- 利用者が減少**



- 清水の維持管理体制の変化



(国勢調査より作成)

清水の空間としての立ち位置

① 女性の場所として捉えている

- 女性の語らいの場と認識

「お母さん方、奥さん方の – 中略 – まあ昔でいう井戸端、会話っていう感じですよ
ね。」(Cさん)

- 男性には閉ざされた場所

「(近所のお母さんたちの場所)だからおらも水汲みに行かんなんも行かれんちゃ。」
(Gさん)

「男の人が汲みに来的时候は – 中略 – 堂々とじゃなくって『汲ませて』っていうて女の
人の間入って汲むっていう感じ。」(Hさん)

清水の空間としての立ち位置

②男女間での清水との関わりの差

- 清水の主な利用用途は洗濯などの家事関係
→女性が頻繁に利用
- 女性が中心となって清水を管理
⇒女性と清水の関わりが大きい

清水の空間としての立ち位置

①②から清水はジェンダー化された空間であるといえる

- 誰でも利用可能であるのに**女性が家事労働を行っていた**
- 女性が主に利用するにも関わらず、**男性が世帯の代表**としてグループに加盟
 - ⇒清水は**性的役割分業・家父長制を反映**
 - ⇒清水がジェンダー化された空間として再生産された要因

清水が地域社会に果たした役割

清水は女性転入者を地域社会に定着させる機能を果たしていた

他地域出身者の女性が多く転入

地域のしきたりや方言を知らずに
来る人が多い

YKKグループ工場への集団就職、それに伴う社内結婚
(秋田県などから多く転入)

※秋田県からの転入者188人のうち女性129人(住民登録人口移動報告年報 1963年より)

→清水の利用を通して知識を身に付ける

→地域コミュニティの一員となる機会を創出

⇒**生地地区の住民として女性たちを定着させた**

清水が地域社会に果たした役割

- 清水に対して…
 - ・ 地元出身者：特別感や誇りない・当たり前なもの
 - ・ 他地域出身者：地域のすばらしい場所の一つ
- 清水は他地域出身者も多く利用
 - 交流を通じて地元出身者が地域の魅力に気づく
 - ⇒ よそ者効果の一つである**地域の再発見効果**(敷田 2009)
 - ⇒ 清水は**地域の魅力の発見・再発見を促していた可能性**

まとめ

- 清水をジェンダーの視点から捉えると…
 - ・ 女性の場所と認識されている
 - ・ 女性が中心となって利用・管理を行う
- ⇒ 清水はジェンダー化された空間である

性的役割分業・家父長制
を反映

- 清水の地域社会に果たした役割
 - ・ 女性転入者を地域社会に定着させた
 - ・ 地域の魅力の発見・再発見を促した
- ⇒ ジェンダー化された空間は新規加入者を社会に定着させる、視点の違いから新たな発見を促す機能があった

まとめ

- 清水の利用者は減少
 - ジェンダー化された空間としての側面を失いつつある
 - ⇒女性転入者を地域社会に定着させる役割の継続×
- 清水の観光利用により訪問客が増加
 - 訪問客との交流により清水の魅力を再認識
 - ⇒地域の魅力を再認識させる役割は継続

今後の課題

清水は子どもの教育の場ともなっていた

⇒アロマザリングの視点から捉えることができるのでは

アロマザリング

「母親以外の個体による子どもの世話」(根ヶ山 2016)

子育てと母親を結びつけて考えるため、母親は子育てに対して負担感を抱えている可能性あり(根ヶ山 2016)

⇒清水が子育ての負担を軽減していた？

参考文献

- ・ 井上輝子 1995. 日本の女性学と「性役割」. 井上輝子・上野千鶴子・江原由美子編『性役割』1-21. 岩波書店.
- ・ 上野千鶴子 2002. 『差異の政治学』岩波書店.
- ・ 影山穂波 2000. 1930年代におけるジェンダー化された空間－同潤会大塚女子アパート－. 人文地理 52: 321-340.
- ・ 久木元美琴 2010. 地方温泉観光地における長時間保育ニーズへの対応－石川県七尾市の事例から－. 地理学評論 88-(2): 176-191.
- ・ 黒部市立生地公民館編 1989. 『ふるさと 生地の歴史点描』自家出版.
- ・ 五十年史編纂室編 1984. 『YKK五十年史』吉田工業株式会社.
- ・ 敷田麻美 2009. よそ者と地域作りにおけるその役割に関する研究. 国際広報メディア・観光ジャーナル 9: 79-100.
- ・ 根ヶ山光一 2016. アロマザリングの島の子どもたち－多良間島の子別れ－. 教育心理学年報 55:219-225.
- ・ 松野祐太・福島秀哉 2018. 黒部市生地地区の清水にみる地域資源と住民の関係の持続性に関する考察. 実践政策学 4: 179-190.
- ・ 吉田容子 2004. ジェンダー研究と地理学. 水内俊雄編『シリーズ〈人文地理学〉5 空間の社会地理』59-79. 朝倉書店.
- ・ 吉田容子 2006. 地理学におけるジェンダー研究－空間に潜むジェンダー関係への着目－. E-journal GEO 1: 22-29.
- ・ 吉崎祐子 2005. 住民の意識と行動からみる「しょうず」との関わり－富山県黒部市生地地区を事例に－. 奈良女子大学卒業論文.